

改苗字

〔寛永諸家系圖傳二百十一〕加藤

正方○中
略

清正につかへ同姓をゆるされて片岡をあらためて加藤と號す、

〔豆相記〕延元二年九月、先帝○義良
○北條
○後醍醐天皇第八宮、親王、關東下向之時、時行○高時子
○中時子扈從矣、兵船五百餘艘自伊勢國大湊既令出船渡海之時、於遠天流灘遇于逆風、見伊勢國吹寄○中時行寓居勢州矣、改名字號伊勢二郎時行、時行生行氏、行氏生時盛、時盛生行長、行長生氏盛、迄于氏盛未改伊勢氏所以號伊勢新九郎、

〔南海治亂記〕南北帝御和平記

豫州ノ宮方、土居、得能モ漸々ニ衰テ、兩家ヲ合テ一家トシ、得居ト稱號シテ、近世マデ相續セリト
カヤ、

〔總見記十四〕越前國兵亂注進事

同キ二〇年天正十一月下旬ニ至テ、桂田ハ、濃州岐阜ヘ御禮ニ參ル、其時朝倉式部大夫景鏡、同孫三郎景健、溝江大炊助長逸モ同道ス、景鏡景健ハ、朝倉ノ苗氏憚有リトテ、土橋式部大夫安居孫三郎ト改名シ、三人トモニ、本領安堵悉由御禮ヲ申上ゲ、種々進物ヲ獻上ス、

〔寛永諸家系圖傳二百二十三〕進藤

某

源次郎

織田信長の叔母をめどる、あるとき信長の命にそむく、かるがゆゑに織田上野介、ひそかに源次郎に謂けるは、乙部氏をあらため、進藤と稱べしこなり、これ信長の思ふところをおそれてなり、